

# 学術会議マスタープラン2023 への提案に関する趣旨説明会

日時: 9月1日(水) 9:00 - 10:35

場所: Zoom によるオンライン

[https://www.wakusei.jp/~shourai/for\\_all/2021/index.html](https://www.wakusei.jp/~shourai/for_all/2021/index.html)

将来構想検討作業部会

荒川政彦(部会長), 中村 昭子, 中本 泰史,

倉本 圭, 田中 智, 玄田 英典

# プログラム

1. 9:00-9:05

はじめに

— 荒川政彦(将来構想検討作業部会長)

2. 9:05-9:35 (発表15分+質疑・応答15分)

国際宇宙探査計画と連動した火星宇宙天気・気候・水環境探査(MIM)

— 関 華奈子(東京大学大学院理学系研究科)

3. 9:35-10:05(発表15分+質疑・応答15分)

惑星科学、生命圏科学、および天文学に向けた紫外線宇宙望遠鏡計画

— 土屋史紀(東北大学大学院理学研究科)

4. 10:05-10:35(発表15分+質疑・応答15分)

惑星科学コンソーシアム

— 竝木則行(国立天文台)

5. 10:35-10:40

まとめ

— 荒川政彦(将来構想検討作業部会長)

## マスタープラン2023とは

### ○ マスタープラン

学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープランは、科学者コミュニティの代表としての日本学術会議が、学術的意義の高い大型研究計画を広く網羅し体系化することにより、我が国の大型研究計画のあり方について、一定の指針を与えることを目的として策定するものである。

### ○ 対象

長期（5-10年またはそれ以上）の実施期間と予算総額数十億円超の規模を有する大型施設計画と大規模研究計画

### ○ ご利益

学術政策、関係省庁、大学、研究機関等における具体的施策や予算措置に活用される...かも知れない（採択されたからと言って予算がつくわけではないが、採択されないと低く見られる）

### ○ これまで

マスタープラン2014

マスタープラン2017

マスタープラン2020

# 大型研究計画への惑星科学会の対応

## 現状の準備状況の聞き取り

- 6月26日ヒアリング
  - 惑星探査コンソーシアム
  - 戦略的火星探査
- 7月14日 10:00-11:30 学会員向けの説明会1
  - (1) 学術会議における提案の評価と審査状況 (田近)
  - (2) 学会間・機関間の連携 (倉本, 関, 竝木)
  - (3) 6/26ヒアリングの報告 (関, 竝木)
- 7月30日 10:00-11:00 学会員向けの説明会2 (中村, 中本, 竝木, 荒川)
  - 学会のとりまとめ方針
  - 今後の予定

## 2022年初めの公募開始に向けて新提案の取り込み

- 8月2-27日 公募
- 9月1日 9:00- (最長12:00まで) 提案者による趣旨説明会 (将来構想検討作業部会)
- 9月中旬 (学会期間中, または前後) 取りまとめ1次案提示 (将来構想検討作業部会)
- 10-11月 学会内外との調整 (会長・副会長(TBD))
- 12月 学術会議ヒアリング (提案者)
- 2-3月 学術会議の募集に応募

## とりまとめ



- 前回提案(戦略的火星探査, 惑星科学コンソーシアム)と新規提案を flat に評価する
- 提案の条件: 計画として成熟していること  
学術会議の評価基準を元に判断する  
検討段階の提案は「来る10年」へ
- 将来構想検討作業部会(惑星科学会運営委員会において承認済み)
  - 部会長 荒川政彦(将来計画専門委員会)  
中村昭子(会長), 中本泰史(副会長), 倉本圭, 玄田英典, 田中智
- 評価よりも統合を

惑星科学会から提案するに相応しい内容であることを確認し、今後の学会からの申請に向けての参考とする。

# 観点

1. 計画の学術的意義(国際性や国際連携についても観点に含める)
2. 科学者コミュニティの合意(コミュニティの拡がり及び合意のレベルも観点に含める)
3. 計画の実施主体の明確性(合意のレベルについても観点に含める)
4. 計画の妥当性(装置等の開発・制作・設置だけでなく、運用計画とその後の計画, それぞれに必要な期間や予算措置についても含める)
5. 共同利用体制の充実度
6. 社会的価値(国民の理解, 知的価値, 経済的・産業的価値, SDGsへの貢献等)
7. 大型研究計画としての適否
8. 成熟度
9. 我が国としての戦略性, 緊急性